

学校・保護者間の連絡手段をデジタル化する

学校からの急な日程変更や、保護者からの児童・生徒の欠席連絡など、これまで電話や連絡網で行われていた連絡手段をデジタル化する取組が浸透してきています。このことにより、学校と保護者が効率よく必要な情報を共有できるとともに、教職員の業務負担が軽減し、子どもたちに向き合う時間や授業準備の時間を確保できるようになってきました。

1 児童・生徒の欠席・遅刻連絡等の受付をデジタル化している

道立学校55. 4% 市町村立学校63. 8%

学校の効果	保護者の効果
<ul style="list-style-type: none"> 教師の電話対応時間の大幅な短縮 担任が直接確認でき、教師間の連絡が不要 リアルタイムで一覧の状況を把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> 電話がつながらないなどのロスがない

運用に当たり留意する点

(各効果は、文部科学省資料より抜粋。以下同じ。)

- 児童・生徒からではなく、保護者から連絡するルールの徹底
- 受付終了時間の共有
- 直接状況を伝える、または、聞き取る必要がある場合の対応についての共通理解

2 保護者へ連絡文書等の送信をデジタル化している

道立学校82. 6% 市町村立学校87. 6%

(1)緊急時の一斉連絡

学校の効果	保護者の効果
<ul style="list-style-type: none"> 電話連絡等の大幅な削減 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な緊急連絡の実施 保護者が外出先などでも確認可能

運用に当たり留意する点

- 保護者が確認したことを掌握する方法の共有
- 既読とならない保護者への対応方法のルール化

(2)日常的なお便りの配布

学校の効果	保護者の効果
<ul style="list-style-type: none"> 印刷業務の大幅な削減、紙・インクの節減 配布業務の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の出し忘れや、紛失の心配がない 保護者がいつでもどこでも繰り返し見られる

運用に当たり留意する点

- データであるが故に拡散しやすい点を踏まえた適切な情報発信、個人情報の取り扱いの徹底

3 保護者への調査・アンケート等の実施・集計をデジタル化している

道立学校84. 7% 市町村立学校93. 0%

学校の効果	保護者の効果
<ul style="list-style-type: none"> フォーマットの利用による作成の負担軽減 印刷・配布業務の削減 集計作業の大幅な効率化 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンなどでいつでも回答可能

運用に当たり留意する点

- スマートフォンで回答しやすいフォーマットとすること

(実施割合は、令和6年度学校における働き方改革北海道アクション・プランに係る取組状況調査結果)